

世界のアボカド市場は「拡大に備える」

[EUROFRUIT 2024年6月5日](#)

ラボバンクの新しいレポートは、生産と貿易の増加による市場の変化を予測

世界のアボカド関連ビジネスを調査したラボバンク(オランダの金融機関)の最近のレポートは、生産と貿易の両方の増加を予測し、市場の変化を予想している。

ラボバンクの「食品及びアグリビジネスに関する調査報告書」によると、中南米地域が最大のアボカド輸出者としての地位を維持し、米国が引き続き主要な輸入国であり、業界はさらなる成長に向かって動いている。

同報告書は、「一部の地域では業界が細分化されているにもかかわらず、市場は統合に向かっており、特に南米では競争と利益率の圧迫が激化している」と概要を述べている。

生産と輸出

報告書によると、世界のアボカド輸出は2025年までに300万トンの大台を超えると予想されている。

中南米地域が引き続き最前線に立つ一方で、輸出の状況は多様化しており、予測によるとメキシコ、ペルー、コロンビアが最大のアボカド輸出国となる。報告書はまた、ブラジル、エクアドル及びその他の国々が輸出国として台頭してきているとしている。

欧州のアボカド市場の急成長は、スペインをはじめとするEUでの生産量の増加に拍車をかけている、と報告書は続ける。しかし、水の利用可能性がアボカド生産の大規模な拡大を制限する「重要な要因」であり、欧州での生産のさらなる面積拡大は期待されない。

アフリカは着実な成長を遂げており、ケニアは上昇軌道を維持し、モロッコの輸出は果樹の成木化に伴い「急増」している。

ラボバンクは業界関係者に対し、引き続き一歩先を行くために、「競争が激しく厳しい供給環境」の中でイノベーションを起こすよう促している。

米国が輸入記録を樹立

報告書によると米国のアボカド需要は高まり続けており、2023年の輸入量は前年比11%増の126万トン記録した。メキシコは引き続き米国への主要供給国であり、輸入の90%という「驚異的な」シェアを占める。

欧州では消費パターンが変化し、安定した供給条件を前提に2024/25年度のアボカドの購入量は増加すると予想されるが、「自給率の低さ」から輸入への依存度は高まると見られる。

ラボバンクの青果物担当シニアアナリストであるデビッド・マガーニャ氏は、「アジアと中南米諸国では未開拓の市場が成長の態勢を整えつつあり、チャンスは豊富にある」と説明する。(以下「」は同氏の説明)

「特に南米諸国は、販売促進やマーケティングの取り組みがあれば消費を増やせる機が熟している。アジアの輸入は2023年に前年比29%急増し、中国がその先頭に立っている。」

「ハスアボカドが引き続き大勢を占めると見られるが、ハスに似た品種、特に高い収量を期待できる品種が次第に普及していくであろう。」

「世界的な生産量の増加に伴い、業界は価格の圧迫に直面しており、米国及び欧州の市場では品質とサイズが極めて重要である。」

報告書によると、南米のアボカド産業は統合が進んでおり、大企業がますます業界を支配するようになっている。市場が、競争、利益率の圧迫及び通年供給の需要に対応するのに伴い、この傾向は続く予想される。

執筆者: カール・コレン